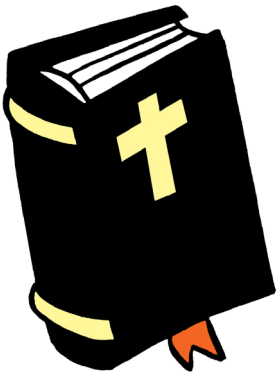


ひつじか しょうねん きょじん 羊飼いの少年と巨人



イスラエルのサウル王がペリシテ軍と戦っていると、ペリシテ軍の中から巨人が出てきて、イスラエル軍に戦いを挑んできました。

その巨人ゴリアテが言いました。「わたしと戦う者を一人出せ。もしわたしを殺せたら、ペリシテ人はおまえたちの家来になる。だが、わたしがその者を殺したら、おまえたちがわれわれのどれいになるんだぞ！」

サウル王の軍には、ペリシテ軍の中で最も大きく強く、おそれられている男と戦うという挑戦を受けて立とうという兵士は、一人もいませんでした。ところが、不意にある若者が声を上げました。「わたしが行って、戦いましょう。」

兵士ではない、この若い羊飼いは、石投げと石だけで、荒々しい巨人に勇ましく立ち向かって行ったのです。少年はさげました。「おまえは、つるぎと、やりと、たてで、わたしに向かってくるが、わたしは神の名によって、おまえに立ち向かう。今日、主はおまえをわたしの手に渡されるであろう！」

そして、神様は勝利を与えてくださったのでした！ その若い羊飼いの名前は、ダビデです。後に、ダビデはイスラエルの王様になります。

サムエル記上 第17章に そのお話が書かれているので、読んでみましょう。